

☆ 授業のヒント

テーマ 外国語学習に文化理解を取り込む 2

| |
|---|
| 目的 もくでき |
| 日本語学習に文化理解が必要であることを知る。 日本語と自国の文化の共通点と相違点に気づく。 異文化に対応できる力(異文化間能力)を育てる。 |
| 学習者のタイプ がくしゅうしゃ |
| 初級以上 |
| クラスの人数 にんずう |
| 何人でも |

◆文化理解を促す補助教材

みなさんは、どのような補助教材を使っていますか。
補助教材として、写真や絵パネル、実物、ビデオや音声テープなどさまざまなものを使っていると思います。日本の物や写真などを利用すると、学習者の興味をひきつけやすく練習できるだけでなく、日本の姿を伝えることができるという効果があります。自分の国にない物や、同じ物でも形や素材が違う物の場合、日本と自国の生活文化の違いに気づかせることもできます。また、日本人の意識調査の結果などのデータも自分たちの考えと比較させることができ、文化理解を深めることに役立ちます。

◆実物を使う

文型の導入や練習のときにも、日本の実物を使えば、文化理解を授業に簡単に取り入れることができます。例えば、次のような取り入れ方ができます。

文型：(道具/手段)で(動詞)ます

目標：文型の導入と練習。

道具や食文化などの違いについて知り、異文化に興味を持たせる。

活動：

- 日本の年賀状(実際に使われたもの)を見せ、年賀状がどのようなものか話す。次に、毛筆で書かれた年賀状を見せ、何で書いたか考えさせる。日本の毛筆を見せながら「筆で書きました」(過去の形がまだの場合は「筆で書きます」と言い、この文型を導入する。
- 学習者の国の料理の写真を見せ、何で食べるか聞く。次に、日本の料理(箸で食べるもの)の写真を見せ、

今回は前回に続き、日本語授業にどのように文化理解を取り込むことができるか、特に、実物や写真などの補助教材の効果的な使い方を紹介します。

- 何で食べるか聞く。そして、日本の箸を見せる。
- 同じように、自分の国にある料理、日本の料理を挙げて、何で食べるか口頭で練習する。そのとき、同じような料理でも、日本とは食べ方が違うものを挙げるとよい。

例) そば→はしで食べます。
(自国のそばに似た料理)は、スプーンとフォークで食べます。

応用：

- 箸以外の食器などの物や道具に注目して、生活習慣や文化の違い、共通点を考える活動に発展させる。
- 毛筆書きの年賀状を通して、生活習慣が時代によって変わっていくことを紹介し、文化が変わることもあるということに気づかせる。

◆視覚教材を使う

会話の練習をするとき、場面の提示のために写真やイラストを使うことがあります。そのときに日本の場面を用いれば、日本の文化、習慣も同時に扱うことができます。ここでは「みんなの教材サイト」で提供されている写真とイラストを使った会話練習の方法を紹介します。

<金子さんの家の玄関で>

ヤン：こんにちは。
金子：いらっしゃい。どうぞお上がってください。
ヤン：失礼します。

目標：訪問の場面での会話ができる。

訪問時における日本の習慣について学び、自分たちの習慣と比べる。

活動：

- 訪問の場面の写真を見せて、この写真が何の場面か、どのような会話をしているか、考えさせる。



*写真は「写真パネルバンク」に同じものがあります。

- 訪問場面の会話を導入し、なぜ「上がる」という動

詞を使うのか、玄関のイラストを見せて考えさせる。
(日本では玄関で靴を脱ぐ。家の中が靴を脱ぐところより高くなっている。)

- ③訪問の場面の会話を練習する。そのときに、おじぎをする、握手をしないなどの身振りや態度も教える。
- ④ロールプレイを練習し、一組ずつクラスの前で発表させる。
- ⑤もう一度写真を見せて、そのほかの日本の訪問のマナーを紹介し、自分たちの文化や習慣と似ているところ、違うところを話し合わせる。(例えば、日本では玄関のドアを家主が開けるまで客は待っている。客は手土産を持っていく、訪問するときの約束のし方など。)

応用:

- 写真やビデオを自分で撮り、授業で使う。ビデオは、写真に比べて伝えられる情報が多く、行動や身振りなどもはっきりしているのので、学習者に異文化の気づきを促しやすい。

◆データをを使う

日本語を学ぶ学習者なら、日本人がふだんどのように生活しているかに興味を持っているのではないでしょう。ここでは、日本を含む複数の国の若者の意識調査の結果を使った活動を紹介しします。

下の表は、内閣府(日本の政府機関)が、日本、アメリカ、ドイツ、スウェーデン、韓国の18才から24才の若者を対象に2003年に行った調査結果をまとめたものです(下記ウェブサイトで質問票と調査結果が公開されている。)

表 休日の過ごし方(各国比較) (%)

| 国名 | 順位 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | | | | |
|--------|----------|------|------------------|------|------------------|------|------------------|------|------------------|------|
| 日本 | 友人と共に過ごす | 65.9 | テレビなどをみて、のんびり過ごす | 52.5 | ショッピングを楽しむ | 32.6 | 特に何もせず、ぶらぶら | 31.9 | 読書をしたり、音楽を聞いたりする | 27.7 |
| 韓国 | 友人と共に過ごす | 67.9 | パソコンやインターネットを利用 | 52.9 | テレビなどをみて、のんびり過ごす | 45.9 | スポーツ、映画、演劇等を見に行く | 41.6 | 恋人と共に過ごす | 25.5 |
| アメリカ | 友人と共に過ごす | 68.0 | スポーツ、映画、演劇等を見に行く | 50.5 | 家族と共に過ごす | 50.1 | テレビなどをみて、のんびり過ごす | 49.1 | 特に何もせず、ぶらぶら | 47.3 |
| スウェーデン | 友人と共に過ごす | 90.6 | テレビなどをみて、のんびり過ごす | 64.1 | ショッピングを楽しむ | 59.1 | 読書をしたり、音楽を聞いたりする | 56.1 | ディスコ、カラオケなどで過ごす | 54.7 |
| ドイツ | 友人と共に過ごす | 68.5 | ディスコ、カラオケなどで過ごす | 52.8 | 恋人と共に過ごす | 47.3 | スポーツ、映画、演劇等を見に行く | 42.6 | 読書をしたり、音楽を聞いたりする | 42.3 |

目標: 調査結果が説明できる。

他の国の若者の休日の過ごし方について知り、自分たちと比べる。

活動:

- ①学習者をペアまたはグループにして、調査結果の説明を考えさせ、発表させる。

例) 休日の過ごし方について説明します。5つの国の調査結果を見ると、どの国の若者も「友人と共に過ごす」が一番多いです。ドイツ以外の国では「テレビなどを見てのんびり過ごす」若者が多いです。「パソコンやインターネットを利用」する若者が多いのは韓国だけです。

学習者がすぐに説明できない場合は、問答練習から始めてもよい。

例) Q: どの国も一番多いのは何ですか。

A: 「友人と共に過ごす」が一番多いです。

Q: 他の国にない「休日の過ごし方」があるのはどの国ですか。

A: 韓国の若者です。「パソコンやインターネットを利用」する人が多いです。

- ②クラスで同じ調査を行い、結果を集計し5つの国と比べる。クラスの人数が少ない場合は、同じ学年の生徒全員に調査をしてもよい。

- ③調査結果に対して意見や感想を述べる。この話し合いは母語でしてもよい。

留意点:

- 表の見方に慣れていない学習者の場合、まず表の見方を確認する。複数回答であるため、数字を足すと100%を超えることなどは説明が必要だろう。

応用:

- 表の中の言葉や表現が難しいときは、学習者のレベルに合わせて書き換える。
- 同じウェブサイトで他の質問の調査結果も見ることができるので、学習者の興味や関心を考えて他のものも利用する。

◆授業に文化理解を取り込もう

前回と今回で、日本語の授業に文化理解を取り入れる具体的な方法を紹介しました。普段の授業の中でも、言葉の背景にある文化や習慣に注目してみたり、使う教材を工夫してみたりすることによって、日本の文化に触れ、文化の違いについて考える機会が持てます。異文化に対する驚きや発見を通して、自分たちの文化に対する理解も深まるでしょう。学習者の発見を観察しながら、先生方も文化理解を楽しんでください。

参考資料

「みんなの教材サイト」<http://www.jpff.go.jp/kyozai/>

『写真パネルバンク V・日常生活シリーズ』(1998)

国際交流基金日本語国際センター

「第7回 世界青少年意識調査」(内閣府)

<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/worldyouth7/pdf/top.html>

このコーナーの担当者: 阿部洋子、中村雅子(日本語国際センター専任講師)
読者の皆さんからのアイデア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。